

『統一協会 救出とリハビリテーション』 田口民也著  
第4章 統一協会からの救出・具体的方法

救出のフロー<図解>

相談に行く

救出の決心をする

情報を収集する

- ・統一協会の実態について
  - ①出版物を読む（注1）
  - ②救出成功家族、元信者の体験談を聞く。
- ・同時に聖書（キリスト教）の学習も必要（注2）
- ・本人の現在の動向を知る→「通教」の場合は、救出の決心を絶対に本人に知られないようにする。

家族が覚悟を決める

- ・長期間籠城となることの覚悟—そのためには長期休暇をとらねばならないし、場合によっては現在の職業を辞めなければならなくなる。
- ・期間は普通は1～3か月くらいまで、中には半年以上に及ぶこともある。

協力を依頼する

- ・あくまで両親と兄弟姉妹が中心である。
- ・親類や友人にもできるだけ多く頼む（注3）。

長丁場になるので、身体と心の健康管理に留意する

救出日記をつけ始める

救出前の準備

保護・隔離するための適当な住居を借りる（注4）

中から出口に錠をかける

窓という窓にはすべて内側から危険防止、逃亡防止の目張りをする

その他に脱出口はないか、本人が閉じこもりそうな場所はないか、すべてチェックする

什器・備品の用意をする（注5）

食料を備蓄する（注6）

いつ、どこで救出するか、またそこから保護する場所までの護送の方法をどうするか決める

救出前日までの準備（注7）

保護してからの毎日の監視、説得役のタイム・スケジュール（日程表）作る  
（当分の間は毎日最低3名とする）

救出の決行（注8）

救出後の対応（注9）

説得者・牧師・元信者が来る

この期間は二週間から二か月まで。  
聖書、原理講論が両方ともわからないので、本人と説得者などとの話し合いに両親はついていけないが、できるだけいっしょに勉強する。→原理が「間違っって聖書を教えられている」にしても、実によく聖書を読んでいるのに驚かされる。  
わかってくると、眉間にしわを寄せて考えることがなくなり、顔つきが穏やかになる。  
夜、寝ていて、うなされることがなくなる。寝顔が穏やかになる。  
いつ逃亡しようとしたか、また始めには話さなかったホームでの苦労話などをするようになる。  
説得者が元信者であると、最も威力を発揮する。しかもクリスチャンだとさらに強力である。  
最終的にクリスチャンになれるのであれば、最も心の安寧が得られるように思う。  
これから先は、親はあまり手出しはできない。  
小さい時の良好な親子関係が再び構築できれば最善なのであろう。

\*この後も偽装脱会、フラッシング、心のゆらぎなど問題は続く。  
特にホームでの心温かい共同生活はいつまでも忘れられないようである。

以下略……